

最新市場調査資料

---

**2023年版**

**主要自動車部品のシェア調査**

---

総合技研株式会社

**I. エンジン部品**

1. シリンダーヘッド	1
1. 数量市場規模推移（2020年、2021年、2022年）	1
2. シェア推移（2021年、2022年）	1
(以下共通項目)	
2. シリンダーヘッドカバー	2
3. シリンダーヘッドガスケット	4
4. シリンダーブロック	5
5. エンジン Assy	6
6. ピストン	7
7. ピストンリング	8
8. ピストンピン	9
9. シリンダーライナー	10
10. コネクティングロッド	11
11. クランクシャフト（鋳造品）	12
12. クランクシャフト（鍛造品）	13
13. エンジンメタル	14
14. カムシャフト	15
15. フライホイール	16
16. タイミングベルトカバー	17
17. タイミングチェーンカバー	18
18. インテークマニホールド	19
19. エキゾーストマニホールド	20
20. エンジンバルブ	21
21. バルブスプリング	22
22. バルブシート	23
23. バルブガイド	24
24. ロッカーアーム	25
25. オイルフィルター	26
26. オイルクーラー	27
27. オイルポンプ	28
28. オイルパン	29
29. 電動フューエルポンプ	30
30. DPF（ディーゼル・パーティキュレート・フィルター）	31
31. 燃料タンク	32
32. インジェクター	34
33. スロットルボディ	35
34. EGRクーラー	36
35. エアインテークホース（エアクリーナーホース）	37

36. フューエルチューブ	38
37. 防振ゴム	39
38. アクセルペダル	41
39. コモンレール式燃料噴射装置	42
40. フューエルフィルター (ガソリン用)	44
41. フューエルフィルター (ディーゼル用)	45
42. エアクリナー	46
43. ウォーターポンプ	48
44. ラジエーター	49
45. サーモスタット	50
46. マフラー	51
47. タイミングベルト	52
48. タイミングチェーン	53
49. ターボチャージャー	54
50. スーパーチャージャー	55
51. インタークーラー	56
52. 補機ベルト	57

## **II. 電気, 電装部品**

53. スパークプラグ	58
54. グロープラグ	59
55. イグニッションコイル	60
56. バッテリー	61
57. スターター	62
58. オルタネーター	63
59. コンビネーションスイッチ	64
60. パワーウィンドスイッチ	65
61. ホーン	66
62. ヘッドランプ	67
63. HIDヘッドランプ	68
64. リヤコンビネーションランプ	69
65. ハイマウントストップランプ	70
66. ワイヤハーネス	71
67. メーター	73
68. ワイパーA s s y	74
69. ワイパーブレード	75
70. ウィンドウォッシャー	76
71. リレー	77
72. カーエアコン	78
73. O <sub>2</sub> センサー	80
74. エンジンコントロールユニット	81
75. ABS (ECU・HU)	82

76. EPSコントローラー	83
77. エアバッグ用ECU	84
78. コーナー&バックソナー (ECU)	85
79. パワーウィンドモーター	86
80. HEV用バッテリー	87

### **III. 駆動, 伝動部品**

81. MT	88
82. AT	89
83. CVT	90
84. シンクロナイザリング	91
85. クラッチ	92
86. クラッチマスターシリンダー	93
87. クラッチレリーズシリンダー	94
88. クラッチフェーシング	95
89. クラッチペダル	96
90. チェンジレバー (MTレバー)	97
91. レバー (AT、CVT)	98
92. ステアリングホイール	99
93. ステアリングコラム	100
94. ステアリングジョイント	101
95. ステアリングロック	102
96. 油圧式パワーステアリング	103
97. 電動パワーステアリング	104
98. ラックアシスト式EPS	105
99. ピニオンアシスト式EPS	106
100. コラムアシスト式EPS	107
101. パワーステアリングポンプ	108
102. パワーステアリングホース	109
103. プロペラシャフト	110
104. ドライブシャフト Assy	111
105. スチールホイール	112
106. アルミホイール	113
107. コントロールケーブル	114
108. ビスカスカップリング	116
109. トランスファー	117

### **IV. 懸架, 制動部品**

110. ショックアブソーバー	118
111. スタビライザー	119
112. ブレーキペダル	120
113. ブレーキチューブ	121
114. ブレーキホース	122
115. ブレーキブースター	123

1 1 6.	ブレーキホイールシリンダー	1 2 4
1 1 7.	ディスクブレーキキャリパー	1 2 5
1 1 8.	ディスクパッド	1 2 6
1 1 9.	ディスクローター	1 2 7
1 2 0.	ブレーキシュー	1 2 8
1 2 1.	ブレーキライニング	1 2 9
1 2 2.	ブレーキドラム	1 3 0
1 2 3.	パーキングブレーキレバー	1 3 1

## **V. 車体部品**

1 2 4.	ラジエーターグリル	1 3 2
1 2 5.	ウィンドガラス	1 3 3
1 2 6.	ウィンドレギュレーター	1 3 4
1 2 7.	インナーハンドル	1 3 5
1 2 8.	アウターハンドル	1 3 6
1 2 9.	ドアヒンジ	1 3 7
1 3 0.	ドアトリム	1 3 8
1 3 1.	ドアロック (フロント, リヤ, スライド)	1 3 9
1 3 2.	バックドアロック	1 4 0
1 3 3.	キーセット	1 4 1
1 3 4.	ドアウェザーストリップ	1 4 2
1 3 5.	ガラスランウェザーストリップ	1 4 3
1 3 6.	インストルメントパネル	1 4 4
1 3 7.	グローブボックス	1 4 5
1 3 8.	シート	1 4 6
1 3 9.	パワースライドドア	1 4 7
1 4 0.	パワーバックドア	1 4 8
1 4 1.	ヘッドレスト	1 4 9
1 4 2.	シートベルト	1 5 0
1 4 3.	サンバイザー	1 5 1
1 4 4.	成形天井 (ヘッドライニング)	1 5 2
1 4 5.	サイドミラー	1 5 3
1 4 6.	ルームミラー	1 5 4
1 4 7.	サンルーフ	1 5 5
1 4 8.	マーク	1 5 6
1 4 9.	フードロック	1 5 7
1 5 0.	トランクロック	1 5 8

## 20. エンジンバルブ

### 1. 数量市場規模推移



項目	年		
	2020	2021	2022
数量	137,640	135,040	134,080
対前年比	—	98.1	99.3

- ・エンジンバルブの市場規模推移は上記のとおりとなっており、その市場規模は、2021年 135,040千個、2022年134,080千個となっている。
- ・また、2022年における金額ベースでの市場規模は162億円となっている。
- ・なお、単価については材料、スペックにより様々であるものの、乗用車で80～500円/個（軽自動車用で80円/個、小型車用で100～120円/個、スポーツカーの排気バルブで400～500円/個）、小型トラック用で250～300円/個となっている。また、中型トラック用は500～600円/個、大型トラック用は700～800円/個となっている。（基本的にエンジンの仕様により単価は異なり、負荷の低いエンジン用エンジンバルブの単価は安く、負荷の高いエンジン用エンジンバルブの単価は高くなっている。）

### 2. シェア推移

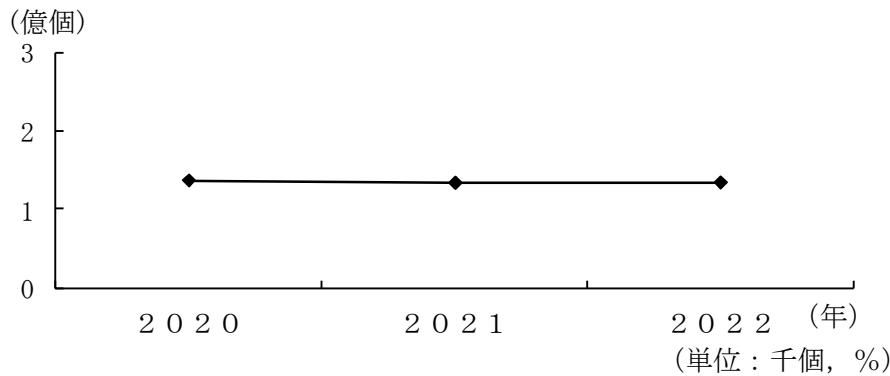
(単位：%)

部品メーカー	年	
	2021	2022
内製	3	3
フジオーゼックス	32	38
愛三工業	36	33
NITTA (旧日鍛バルブ)	27	24
海外メーカー及びその他	2	2
合計	100	100

- ・エンジンバルブのシェア推移は上記のとおりと推定され、フジオーゼックス、愛三工業、NITTAが主力メーカーとなっている。日鍛バルブでは、2022年4月に㈱NITTAに社名変更している。
- ・フジオーゼックスでは、三菱重工工作機械からエンジンバルブの事業を譲り受け、また、各カーメーカーへの納入比率アップにより、シェアが約4割に上昇している。
- ・カーメーカーの内製は、ホンダであり、ホンダでは、パワートレインユニット製造部（栃木県真岡市）において、エンジンバルブ、クランクシャフト、ドライブシャフトなどの部品を生産し、ホンダのエンジン工場に供給している。しかし、電動化への対応により、2025年をもって、パワートレインユニット製造部を閉鎖する。このため、今後の内製比率は減少傾向が予測される。

## 22. バルブシート

### 1. 数量市場規模推移



項目 \ 年	2020	2021	2022
数量	137,640	135,040	134,080
対前年比	—	98.1	99.3

- ・バルブシートの市場規模推移は上記のとおりとなっており、その市場規模は、2021年135,040千個、2022年134,080千個となっている。
- ・また、2022年における金額ベースでの市場規模は31億円となっている。
- ・エンジンバルブの市場規模推移と同一となっている。(数量ベース)
- ・バルブシートの単価は、焼結製で22～24円/個、鋳鉄製は約25～26円/個となっている。(高級セダンでは30円代後半のケースもある。)材料、使用用途(インテーク側, エキゾースト側があり、エキゾースト側が高い。), サイズ, 乗用車用, トラック用などにより、単価は一概に言えない状況となっている。

### 2. シェア推移

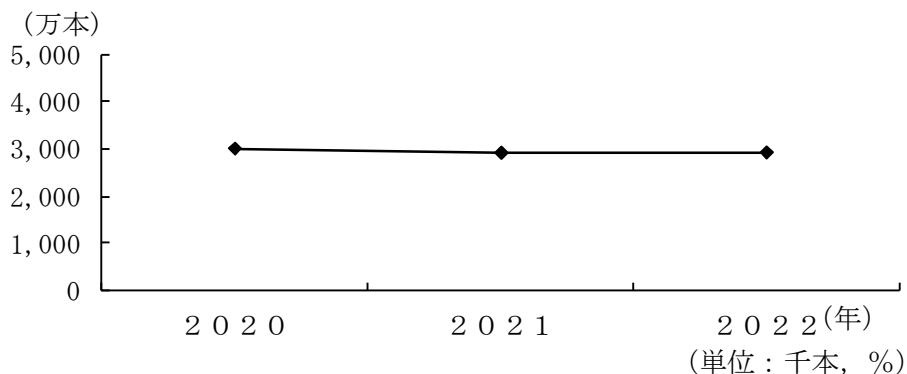
(単位：%)

部品メーカー \ 年	2021	2022
内製	9	10
日本ピストンリング	36	37
ファインシンター	29	25
T P R	9	9
リケン	7	7
レゾナック (旧昭和電工マテリアルズ)	6	7
ダイヤモンド	2	2
その他	2	3
合計	100	100

- ・トヨタでは、クラウンやカムリに搭載のA25A-FXSエンジンのインテーク側レーザークラッドバルブシートを内製している。ダイナミックフォースエンジンの搭載増により、内製比率が上昇している。
- ・昭和電工では、2019年12月18日、日立製作所子会社で化学メーカーの日立化成を株式公開買い付け(TOB)で完全子会社化すると発表している。2020年10月1日より、日立化成では、昭和電工マテリアルズに社名変更している。その後、2023年1月1日、昭和電工マテリアルズでは、レゾナックに社名変更している。

## 53. スパークプラグ

### 1. 数量市場規模推移



項目 \ 年	2020	2021	2022
数量	30,042	29,322	29,246
対前年比	—	97.6	99.7

- ・スパークプラグの市場規模推移は上記のとおりとなっており、その市場規模は2021年29,322千本、2022年29,246千本となっている。
- ・また、2022年の金額ベースでの市場規模は87億円となっている。
- ・なお、スパークプラグの単価は、100～250円/本となっていたが、スパークプラグの部材であるイリジウムの高騰により、2022年4月現在では、250～350円/本となっている。

### 2. シェア推移

(単位：%)

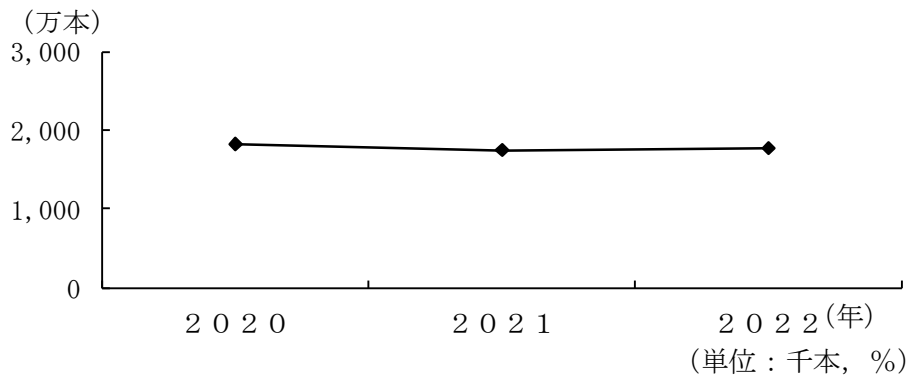
部品メーカー \ 年	2021	2022
日本特殊陶業	55	57
デンソー	45	43
合計	100	100

- ・スパークプラグのシェア推移は上記のとおりとなっている。
- ・日本特殊陶業、デンソーの2社で市場のほとんどを占めている。
- ・日本特殊陶業のシェアが2ポイント上昇している。主な要因としては、各カーメーカーの新型エンジンにNGK製のスパークプラグが採用されるケースが増えていることが挙げられる。マツダのスカイアクティブXエンジン、ダイハツのDNGAエンジンにおけるマルチスパーク機構、SUBARUのCB18型エンジンなどにおいてNGK製のスパークプラグが採用されている。



## 106. アルミホイール

### 1. 数量市場規模推移



項目	年		
	2020	2021	2022
数量	18,182	17,541	17,668
対前年比	—	96.5	100.7

- ・アルミホイールの市場規模推移は上記のとおりとなっており、その市場規模は2021年17,541千本、2022年17,668千本となっている。
- ・アルミホイールとスチールホイールの需要動向に関して、アルミホイールの需要が増え、スチールホイールの需要は減少傾向となっている。要因としては、カーメーカーが意匠性の高いアルミホイールを採用するケースが増えていることによるものと思われる。
- ・また、2022年の金額ベースでの市場規模は885億円となっている。
- ・なお、アルミホイールの単価は、軽自動車用で3,000～4,000円/本、小型車用で5,000～6,000円/本、高級車用で6,000～7,000円/本となっている。材料（アルミの素材価格）、重量などにより単価には幅がある。

### 2. シェア推移

(単位: %)

部品メーカー	年	
	2021	2022
内製	2	2
エンケイ	25	26
中央精機	17	15
光生アルミニウム工業	12	13
旭テック	10	8
その他(海外メーカーなど)	34	36
合計	100	100

- ・アルミホイールのシェア推移は上記のとおりとなっている。
- ・エンケイ、中央精機などが主力メーカーとして挙げられる。
- ・光生アルミニウム工業のシェアが上昇しており、2022年は、1ポイント上昇の13%となっている。トヨタ、ホンダ、ダイハツへの納入に加え、スズキ、マツダにも納入したことが要因と考えられる。

## 115. ブレーキブースター

### 1. 数量市場規模推移



項目	年		
	2020	2021	2022
数量	8,068	7,847	7,836
対前年比	—	97.3	99.9

- ・ブレーキブースターの市場規模推移は上記のとおりとなっており、その市場規模は、2021年7,847千個、2022年7,836千個となっている。
- ・また、2022年の金額ベースでの市場規模は291億円となっている。

### 2. シェア推移

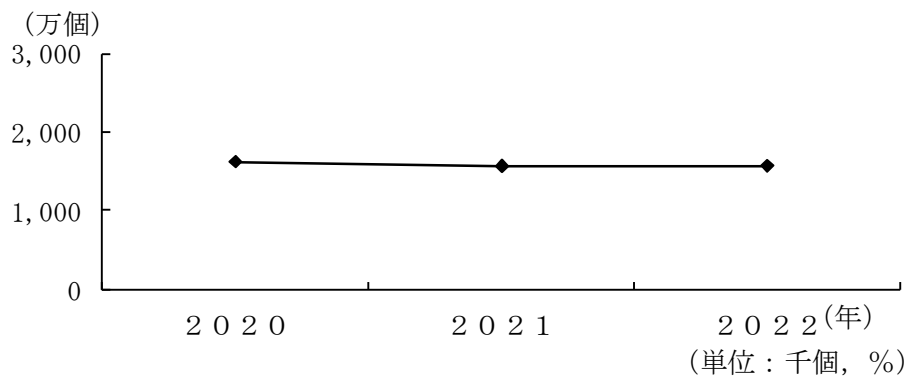
(単位：%)

部品メーカー	年	
	2021	2022
ボッシュ	49	52
アドヴィックス	40	37
日立Astemo上田 (旧日信ブレーキシステムズ)	6	6
その他	5	5
合計	100	100

- ・ブレーキブースターのシェア推移は上記のとおりとなっている。
- ・ボッシュ、アドヴィックス、日立Astemo上田(旧日信ブレーキシステムズ)などが主力メーカーとして挙げられ、3社で市場のほとんどを占めている。
- ・ボッシュのシェアが上昇しており、トヨタのヤリス、SUBARUのレヴォーグなどの売れ筋車種に、電動油圧ブレーキのi Boosterを納入したことが要因と考えられる。
- ・オートリブと日信工業では、2015年9月、合弁会社のオートリブ日信ブレーキシステムジャパンを設立。2016年3月31日より稼働を開始している。2018年4月1日付で社名をヴィオニア日信ブレーキシステムジャパンに変更している。
- ・両社における担当部品の内訳は、ヴィオニア日信がABS、ブレーキブースター、ESC、クラッチリリースシリンダーなどであり、日信工業がキャリパー、ブレーキシューなどとなっている。ヴィオニア日信ブレーキシステムジャパンでは、2020年2月に社名を日信ブレーキシステムズに変更している。その後、日信ブレーキシステムズでは、2021年3月5日をもって、社名を日立Astemo上田に変更している。

## 145. サイドミラー

### 1. 数量市場規模推移



項目	年		
	2020	2021	2022
数量	16,136	15,694	15,672
対前年比	—	97.3	99.9

- ・サイドミラーの市場規模推移は上記のとおりとなっており、その市場規模は、2021年15,694千個、2022年15,672千個となっている。
- ・国内生産に比例の市場となっている。
- ・また、2022年の金額ベースでの市場規模は548億円となっている。
- ・なお、サイドミラーの単価は、1,000～6,000円/個となっている。(軽自動車用で、1,000円前後、ミニバン、SUVクラスで5,000～6,000円となっている。)

### 2. シェア推移

(単位：%)

部品メーカー	年	
	2021	2022
村上開明堂	37	44
ミツバ	6	—
市光工業	14	14
ペンストン (石崎本店)	12	12
サカエ理研工業	11	11
ミネバアクセスリユージョンス (旧ホンダロック)	7	7
東海理化	7	7
その他	6	5
合計	100	100

- ・サイドミラーのシェア推移は上記のとおりとなっている。
- ・トップメーカーの村上開明堂のシェアが7ポイント上昇し、2022年には、44%となっている。ミツバからSUBARUへの納入分が村上開明堂へ移管したことが要因となっている。
- ・シェア3番手の石崎本店では、2022年に石崎ホールディングスを設立。事業を石崎本店、ペンストン、石崎に分社化している。この内、自動車用ミラーの製造、販売はペンストンに移行している。ペンストンでは、マツダのミラーのほとんどと、三菱自動車、ホンダなどにサイドミラーを納入している。

禁 無 断 転 載

**2023年版**  
**主要自動車部品のシェア調査**

価 格 : 52,800 円 (税込)

発刊日 : 2023 年 6 月 30 日

発刊者 : 総合技研株式会社

本 社 : 〒450-0003

名古屋市中村区名駅南一丁目 28 番 19 号

名南クリヤマビル

TEL (052) 565-0935(代)

E-MAIL aam53300@nyc.odn.ne.jp